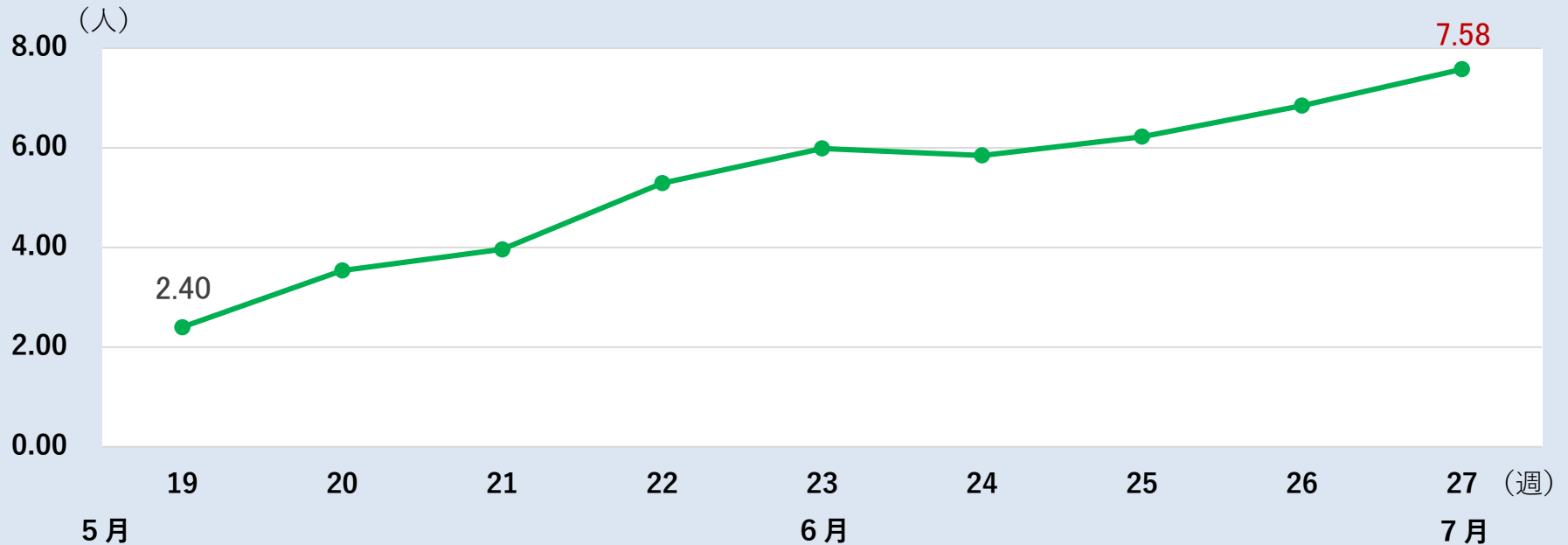


# 都内における新型コロナウイルスの感染状況

## 定点医療機関当たりの患者報告数の推移



# 新型コロナの感染を防ぐためには

換気、手洗い、場面に応じたマスクの着用などが有効



- ✓ 感染防止対策は、個人・事業者の自主的な判断と取組が基本
- ✓ 換気やマスクの着用は、熱中症予防との両立を！

# 東京都新型コロナ相談センター

医療機関の受診や自宅療養中の体調不安などの相談を受付

- (例)
- ・どの医療機関を受診すればよいかわからない
  - ・自宅で療養しているが、体調が優れない など

0 1 2 0 - 6 7 0 - 4 4 0

(毎日・24時間対応)

# 高齢者施設・障害者施設向け感染症対策ガイドブック

○施設で平時から実践すべき対策等を職員向けに分かりやすく解説

○イラストや写真を多く活用、東京iCDCの意見も参考にした実用的な内容

## (6) 手指衛生

### ① 手指消毒

- 手指消毒は、感染対策の基本です。
- アルコール消毒液（濃度70%以上95%以下のエタノール）は、濡れた手ではなく、必ず乾いた手に使います。
- アルコール消毒液は、手全体にいきわたる量を使用しましょう。ポンプは下までしっかり押し切り切ります。しっかり押し切った量が、適正量の2〜3mlとなります。
- 施設で使っている製品の正しい使い方（量や擦り込み時間）も、きちんと確認しましょう。

消毒液の濃度は  
70〜95%



- ① ポンプを下までしっかり押し切り、アルコール消毒液を手のひらに取る  
(500円玉大のアルコール消毒液の溜まりができる)

使用開始日を  
容器に記入



- ② 取り出したアルコール消毒液に指先を付けて手のひらに擦りつける

消毒する手は  
乾燥した状態で



- ③ 手のひらをこする

ポンプは下まで  
しっかり押し切る



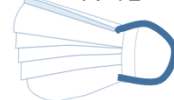
- ④ 手のひら同士を合わせて、指の関節左右の手の甲から指の間を消毒する

## (3) マスク（ユニバーサルマスク）

- 高齢者等の重症化リスクが高い利用者が生活している施設では、ケアの時以外にも常にマスクを着用する「ユニバーサルマスク」が推奨されています。ユニバーサルマスクとは、発熱や咳など症状の有無にかかわらず、すべての人が施設内で常に不織布マスクを着用することを指します。
- 施設外から病原体を持ち込む機会がある職員や面会者は必ずマスクを着用してください。
- 咳やくしゃみなどの飛まつを浴びるおそれがあるケアを行う場合は、マスクをすることによって感染のリスクを下げることができます。
- 感染症によっては、発症前から他の人に感染させる可能性があります。また、発症せず無症状のまま経過する場合も同様に、他の人に感染させることもあります。マスクをきちんと着用していれば、感染のリスクを大幅に下げることができます。

サージカルマスク  
(不織布マスク)

プリーツ型



オメガ型

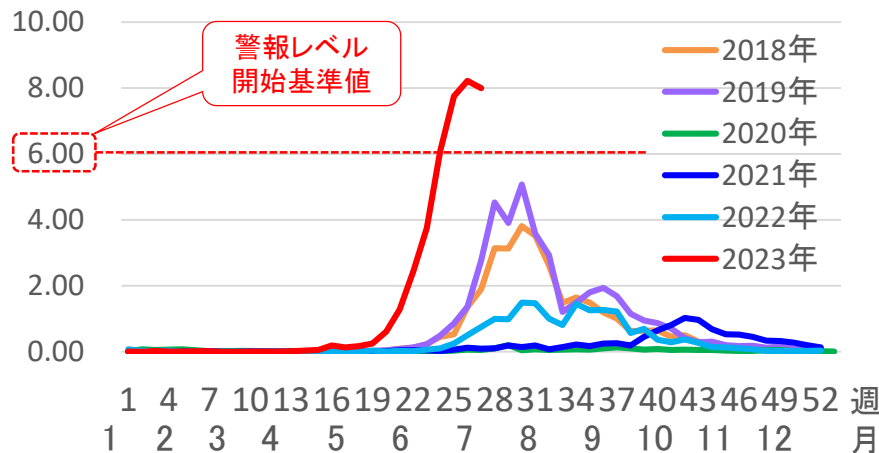


- マスクは不織布の物を使用、ワイヤーが入っている方が上。
- マスクの裏表は、紐の付け根ではなく、必ず商品のパッケージを見て確認
- プリーツ型のマスクは、着用した時以外から見てプリーツが下向き
- オメガ型のマスクは、プリーツが山形になっている方が表
- メーカー名が書いてある場合は読める方が表
- ノーズワイヤーは必ず自分の鼻の形に合わせ、顎を覆って周囲のすき間をなくす

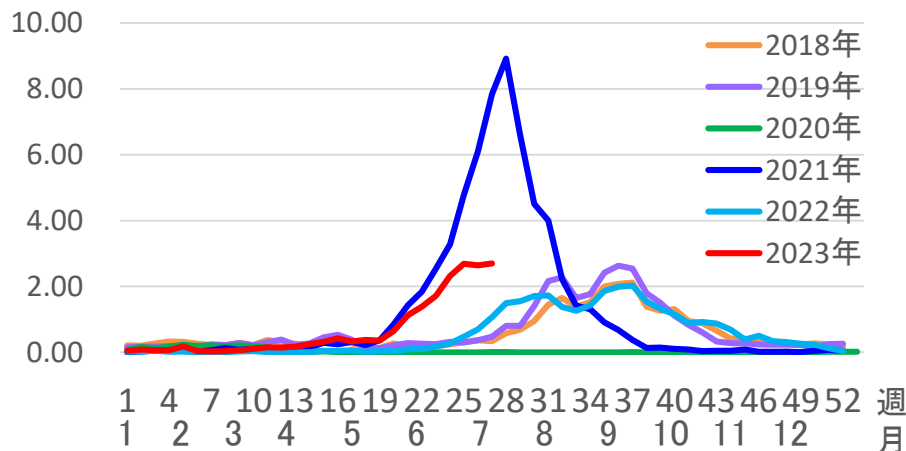


# ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症の状況

## ヘルパンギーナ



## RSウイルス感染症



○ 都内における週別定点あたりの患者報告数 2023年は、7月9日までのデータ

#8000 (小児救急相談)

○月～金曜日(祝日除く) : 午後6時～翌朝8時

○土曜日・日曜日・祝日 : 午前8時～翌朝8時